

## 上海市における後期中等職業教育の改革動向 — 高等職業教育との接続を中心に —

朴雪梅・横山悦生

### はじめに

本稿では、上海市において後期中等職業教育の改革を目玉として、近年推進されている高等職業教育との接続を志向する「中高一貫職業教育」に着目し、2018年9月下旬に行った上海市職業教育現地調査（インタビューと入手資料）の結果を報告する。中国における「中高一貫職業教育」とは広義と狭義の二つに区分して考えられる。広義の「中高一貫職業教育」とは学科を基軸として、後期中等職業教育から高等職業教育に至るまで、産業構造にあわせた人材養成、教育内容などを含めて「現代的な職業教育体系」<sup>1</sup>に改革することである<sup>2</sup>。狭義の「中高一貫職業教育」とは後期中等職業教育と高等職業教育の間に、教育目標、学科、カリキュラムなど接続させることである<sup>3</sup>。本報告ではこの狭義の意味における自動車学科を中心として職業教育機関を対象に「中高一貫職業教育」を取り上げる。

近年、都市化や新しい技術に基づく産業の発達など新たな社会状況に適応した技能者の養成が不可欠となっている。このため政府は、後期中等教育と高等教育において職業教育の質を向上させる政策文書を次々に公表し、「質の高い」多くの技能者を養成する必要があることを繰り返し述べている<sup>4</sup>。さらに、上海市においては、高度な技能を有する若年労働力を養成するための「中高一貫職業教育」が打ち出されてきた。2010年に上海市教育委員会における「上海中長期教育改革人材発展計画綱要（2010—2020）」の中で「中等及び高等段階職業教育の調和的な接続を実現した現代的な職業教育体系を構築する」ために、2010年7月より看護、応用電子技術、自動車、航行機械設備と電力設備といった4つの学科の中で、（3年制中等職業学校<sup>5</sup>+2年制の職業技術学院<sup>6</sup>）（以下に「3+2」制として略称する）または「5年一貫制」という新たな「中高一貫職業教育」を行い、人材養成モデルが示されている。なお、職業教育の現代化をめぐる政策については別の機会に検討する。

次に、中国における「改革・開放」以降の後期中等職業教育改革のあゆみについてみていこう。1970年代末の「改革・開放」から1990年代にかけて、経済成長を目指して、大量に即戦力を持つ技能労働者などの養成が後期中等職業教育の主な目標であった<sup>7</sup>。1990年代後半から、その教育目標は量的拡大から質的改革に移行し、「高い資質を持った労働者、技能型人材を育てる」という新たな教育目標が設定され、多様な職業能力の養成が重視されるようになってきた<sup>8</sup>。蔣乃平（2013）<sup>9</sup>によれば、多様な職業能力とは専門能力、方法能力と社会能力という多能力として定義した。専門能力とは必要な専門知識・スキルの把握や適用である。方法能力とは必要な仕事の方法、学ぶ方法の把握、選択及び適用である。社会能力とは適応性や積極的な人生の態度である。とりわけ、後期中等職業教育において、「能力本位」<sup>10</sup>や就職へより強く導くという実践指向の教育が積極的に行われ、その代表的な例としては「仕事プロセス指向」モデルと「実技主導型」モデルがあげられる<sup>11</sup>。さらに、2000年代に入ってから、職業教育の現代化により、質的向上を目指す中国の後期中等職業教育にとって、高度職業教育との接続が模索されてきた<sup>12</sup>。その背景には、まず、技術革新の進歩に伴い専門性が高い技能者の養成が求められ、中級（国家職業資格四級）を取得した中等職業学校の卒業生は高級（国家職業資格三級）以上の職業資格を取得することが必要となる<sup>13</sup>。それゆえに、中等職業学校の卒業生が職業技術学院に進学する割合はますます高くなっている。また、1990年代末以降、中等職業学校の中には改組・昇格で生まれた職業技術学院と呼ばれるものがあり、その数が急増してきた。中等職業学校入学者の中には、「初級中学学力試験・高級中学段階学校生徒募集試験」<sup>14</sup>（以下に「募集試験」として略称する）の数により、不本意入学者が多く、彼らは卒業後も高等教育を受けたいと希望しているものが多かった。その受け皿となったのが職業技術学院である<sup>15</sup>。そのために、中等職業学校における各学科で職業技術学院へ接続する進学コースを増やしており、「3+2」制・「5年一貫制」という新たなプログラムが導入された。こうした背景から、現在中国都市部の後期中等職業教育では、質的向上のため、職業技術学院との接続を促進するためのプログラムが設置されるようになってきている。

以下では、まず、上海市における「中高一貫職業教育」の現状を述べる。その後、上海市における中等職業学校の進学率の推移を概観し、そこから都市部で中等職業学校が果たす役割の変化について検討する。次に、「5年一貫制」・「3+2」制という「中高一貫職業教育」を実践している中等職業学校に焦点を当てて、それらの職

業能力やカリキュラムなどの構造を分析する。その際、具体的なケースとするのは上海市 A 職業技術学院である。同学院は国家レベルの重点学校であり、「中高一貫職業教育」のモデル校であり、職業技術学院が同一のキャンパスの中で、中等職業学校が設置された学校のケースである。

### 1. 上海市における「中高一貫職業教育」の現状

2010年から上海市における「中高一貫職業教育」は4学科をモデルとして実践を行っている。学制は中等レベル3年制、高等レベル2年制、合計5年制である。モデル学校数は最初7校であった。そのうち、後期中等職業教育機関は4校であり、高等職業教育機関は3校であり、生徒募集数は480人であった(表1-1を参照)が、7000人の入学志願者があり、その倍率は15倍であった。その翌年より、「中高一貫職業教育」は11学科、後期中等職業教育機関10校と高等職業教育機関7校、生徒募集数も1500人に増加した。さらに、2012年には「中高一貫職業教育」は14学科、生徒募集数も2800人に増加し、2018年までには「中高一貫職業教育」は合計で168学科、生徒募集数は約6100人となっている。そのうち、「中高一貫職業教育」学校は、後期中等職業教育機関の国家重点学校であり、高等職業教育機関の省レベル重点以上の学校であった。この表1-1、表1-2によると後期中等職業教育機関と高等職業教育機関とを緊密に接続し、学校数・学科数を増えた。また、中等と高等職業教育機関が同一キャンパスの中で行われている例もある。

表1-1. 2010年「中高一貫職業教育」の学科と学校名

学 科	中高職貫通の学校名		募集数 (単位:人)
	中等職業教育機関	高等職業教育機関	
看 護	上海交通大学医学院附属衛生学校	上海医学高等专科学校	160
応用電子技術	上海電子工業学校	上海電子情報職業技術学院	160
自動車技術サービスとマネジメント	上海交通学校	上海交通職業技術学院	80
航行機械設備と電力設備の補修	民用航空中等専門学校		80

備考：上海交通学校と上海交通職業技術学院は同一キャンパスの中で行われている。

出所：調査当日に配布された資料により、筆者を作成した。

表1-2. 2011年に増加された学科と学校名

学 科	中高職貫通の学校名	
	中等職業教育機関	高等職業教育機関
食物調理と食物栄養	上海徐汇職業高級中学	上海旅行高等专科学校
芸術設計	上海市工芸美術学校	上海工芸美術職業学院
口腔保健	上海交通大学医学院附属衛生学校	上海医学高等专科学校
建築工事技術	上海市建築工程学校	上海建峰職業技術学院
動物医学	上海市農業学校	上海農林職業技術学院
都市鉄道交通	上海市公用事業学校	上海市交通職業技術学院
メカトロニクス	上海市材料工程学校	上海電子情報職業技術学院

備考：上海市工芸美術学校と上海工芸美術職業学院は同一キャンパスである。

出所：調査当日に配布された資料により、筆者を作成した。

### 2. 上海市における中等職業学校の卒業者の進路状況

すでに述べたように、中国では中等職業学校の進路先は就職が主だったが、産業の高度化により、中等職業学校より高度な知識、技能を必要とする職種が増加した。それゆえ、より高度な職種に必要な専門教育が受けられる職業技術学院へと変わっている。ここでは、中等職業学校の卒業生が職業技術学院への進学率の推移を

検討し、都市部の事情に限定して、後期中等職業教育の役割について考察を加えていくことにしたい。そこで、上海市教育科学研究院職業教育・成人教育研究所を行った同市の中等職業学校を対象とする調査結果のデータによれば、職業技術学院への進学率について2003年から2018年まで、15年間の推移を示したのが表2-1<sup>16</sup>である。

まず、表2-1の進学率に着目すると、2003年には39.69%を占め、2008年や2009年に進学率が35%以下に減少したが、10年間に徐々に高まっていき2013年には40.68%に達した。そして、2016年の進学率はほぼ半分を占めた。さらに、2017年に至っては57.09%と就職率を上回っていた。上海市の中等職業学校の卒業者の進路状況をみる限り、後期中等職業教育の役割が、変化しつつあることが伺える。

表2-1 2003年—2018年上海市における中等職業学校の卒業者の進路状況

年分	卒業者数(人)	就職者数(人)	進学者数(人)	ニート(人)	就職率	進学率
2003年	52,342	29,643	20,774	1,925	56.63%	39.69%
2004年	52,188	28,679	22,644	865	54.95%	43.39%
2005年	55,423	31,110	23,375	938	56.13%	42.18%
2006年	53,216	31,776	20,670	770	59.71%	38.84%
2007年	53,060	33,528	18,860	672	63.19%	35.54%
2008年	57,632	36,452	18,959	2,221	63.25%	32.90%
2009年	50,474	31,992	16,442	2,040	63.38%	32.58%
2010年	46,674	26,522	18,957	1,195	56.82%	40.62%
2011年	44,529	27,782	15,835	912	62.39%	35.56%
2012年	39,834	23,911	15,097	826	60.03%	37.90%
2013年	39,719	22,694	16,158	867	57.14%	40.68%
2014年	46,866	45,895	—	971	—	—
2015年	35,688	20,045	14,976	667	56.17%	41.96%
2016年	33,444	17,135	15,727	582	51.23%	47.02%
2017年	29,716	12,266	16,966	484	41.28%	57.09%
2018年	29,388	10,896	18,122	370	37.08%	61.66%

備考：就職者数は企業や機関への人数であり、それに加えて軍隊入隊、起業、留学等の人数を含む。進学者数は高等職業技術学院と四年制大学の人数を含む。ニートとは就職もせず教育や訓練も受けていない卒業生である。なお、就職率や進学率について、同データにより筆者が試算。

出所：注16のデータを基づき、まとめた。

また、こうした中等職業学校進学率の上昇を鑑みて、高等教育がエリート教育から大衆化段階に向かい、高等職業教育の発展によって、中等職業学校卒業者の上級教育を受ける割合がますます増えてきた。

学校の教務主任へのインタビュー調査によると、後期中等職業教育の役割変化には以下のような要因があげられた。まず、著しい経済発展を遂げた都市部で富裕層が増えてきたことや、「一人っ子政策」の影響で親は一人の子どもに対して熱心に教育的投資を行ってきた。二つ目は、生徒の職業意識は未熟であり、社会への就職意欲が弱くて、入職時期を遅らせたい。三つ目は、産業現場の生産技術の進歩に伴い、とくにハイテク産業の増加により、技能者に対して知識や技能レベルなど需要が高まり、高学歴が求められた。

今後、こうした就職にも進学にも対応する多様な内容を扱う後期中等職業教育において、それぞれの生徒進路のニーズに適した教育を提供することがより求められている。では、生徒の進路変化に応じた教育とは、実際にどのように行われているのだろうか。以下では、自動車関係における「中高一貫職業教育」に焦点を当てつつ、具体的な内容をみていく。

### 3. 上海 A 職業技術学院の事例

#### (1) 上海 A 職業技術学院の概要

上海 A 職業技術学院（以下に A 校として略称する）は、2001年4月に設立され、全日制の国家級重点職業技術学院であり、そして、同一キャンパスの中で中等職業学校が設置され、後期中等職業教育・高等職業教育

機関の一貫校（以下に「一貫校」として略称する）となっている。現在、設置されている学科は自動車運用科、物流管理科、都市交通管理科、電気技術と情報科、人文芸術科、社会科学科、文化基礎科という7つの学科を構成している。

A校の「5年一貫制」・「3+2」制という「中高一貫職業教育」は、上海市教育委員会から出された2010年の「人材養成プログラム」により、「中高一貫職業教育」のモデル校としてA校に導入することが決まった。現在、1.0版体制内の「中高一貫職業教育」、2.0版体制外の「中高一貫職業教育」、3.0版の「中高一貫職業教育」という3つのプログラムが構成されている。具体的な内容は以下の通りである。

- ①1.0版体制内の「中高一貫職業教育」とは同一キャンパスの中で後期中等職業教育機関（上海市交通学校）と高等職業教育機関（上海市交通職業技術学院）が設置され、同校の最も特色があるプログラムだと言える自動車運用学科の中で「自動車補修と販売」コースと「自動車運用と補修」コースに当てて「5年一貫制」を設けて行われている。
- ②2.0版体制外の「中高一貫職業教育」とは同校の高等教育機関と他の1つの後期中等職業教育機関（上海海事大学附属職業学校）との接続である。「物流管理」コースと「通関と国際貨物輸送」コースに当てて「3+2」制を設けて行われている。
- ③3.0版の「中高一貫職業教育」とは同校の高等教育機関と他の5つの中等職業学校との接続であり、2013年から上海市の唯一の実験校として行うプログラムである。都市交通管理科、自動車製造や運用科に関するコースを試行している。

## （2）調査対象の選定理由

調査の対象として自動車関係を選択したのは以下の理由による。第1に、製造業・現代サービス業における技能者不足のため、職業教育・訓練に熱心に取り組んでおり、2004年に国家教育部、労働保障部、国防科学技術工業委員会、情報産業部、交通部、衛生部の関係6部門による「製造業・現代サービス業技能型人材養成プロジェクト」を公布し、CNC技術応用、コンピュータ応用とソフト技術、自動車運用と補修、看護という4つの専門分野で「製造業・現代サービス業技能型人材養成プロジェクト」<sup>17</sup>を行った。第2に、経済発展途上の中国において、自動車販売が急速に増加している。しかし、自動車からの排出ガスは、特に大都市、中規模都市にとって大きな脅威となっている。そのために、自動車産業の持続的発展はエネルギーや環境問題などに直面しており、新技術イノベーション能力が求められている。第3に、ME化、情報化の飛躍的進歩に伴い、自動車産業システムの進歩や技術設備の更新などに適応する技能者の養成が必要である。

## （3）入学者選抜方法と選別試験制度

A校の「5年一貫制」・「3+2」制への入学者は面接の成績に従って合格者がきめられることになっている。この面接は生徒が受けるのみならず、保護者が参加できることになっている。生徒や保護者はその学科の養成目標、教員の能力、卒業後の就職方向などについて面接官に質問することができる。同時に、面接官は生徒のニーズや関心により、「5年一貫制」・「3+2」制に適應できるかどうかを1つの評価基準としている。

選別試験制度（「甄別考試」）とは、1年間の課程を終えた生徒が、学力筆記試験を受け、合格の基準に達した者はそのまま学習を続けることができるが、不合格になった者は再試験を行う制度である。再試験に落ちた生徒は2科目に不合格になった者は同学年の就職向きコースに転送し、3科目以上に不合格した者は留年させる。同校の教務主任へのインタビューによると、本校において、この試験での「留年率」は一般に1%を超えないとされている。なお、現在の在校生総数は4632人であり、そのうち、「中高一貫職業教育」を受ける生徒数が全体の1/3となっている。

では、同校の最も特色がある1.0版体制内の「中高一貫職業教育」のプログラムとする「5年一貫制」の「自動車補修と販売」コースについて、どのような取り組みが行われているのかを検討していく。

## （4）「自動車補修と販売」コースのカリキュラム構造と特徴

同コースのカリキュラム体系（図3-1）<sup>18</sup>が職場の分析、職業能力分析、カリキュラムの設置というプロセスで構成されている。

- ①職場の分析：生徒が実習を行った職場はコア職場と呼ばれ、卒業後にほとんどが他職域へ就職できていない。

同コースに応じ職域を広げていくこと。

②職業能力の分析：同校では自動車業界の専門家と連携し，国家人力資源と社会保障部（日本の厚生労働省に相当する）の職業資格と業界の基準によって，自動車業界の職業能力の基準を制定する。従来の高級レベル（四級）の職業資格証を取得するために，中等職業学校では3年で中級レベル（三級）の職業資格証を取得してから，それに加えて高等職業技術学院の3年で合計3年かかるが，「中高一貫職業教育」は5年でその成果を実現できる。さらに，自動車の補修や販売に関連する複数の技能に習熟した技能労働者（多技能者）の養成を実現できる。

カリキュラム の設置	共通基礎科目	専門コア科目	専門系列科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語文</li> <li>・数学</li> <li>・英語</li> <li>・コンピュータ応用</li> <li>・徳育と2つの科目</li> <li>・体育</li> </ul> 専門基礎科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車文化</li> <li>・自動車機械基礎</li> <li>・自動車電子電気技術</li> <li>・自動車の構造と分解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車販売</li> <li>・自動車販売法律と法規</li> <li>・自動車販売実務</li> <li>・自動車補修のサービス実務</li> <li>・自動車メンテナンス規範</li> <li>・自動車修理</li> <li>・自動車性能の測定</li> <li>・自動車の修復技術</li> <li>・サービス情報とメンテナンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車保険と賠償実務</li> <li>・販売心理学</li> <li>・自動車部品の販売</li> <li>・自動車美装と塗装</li> <li>・中古車の販売</li> </ul> 選択科目
職業能力 の分析	専門基礎能力	専門コア能力	専門展開能力
職場の分析	コア職場：自動車整備士、販売員		
	関連する職場：自動車保険及び賠償、中古車の販売、自動車部品の販売		

図 3-1 「自動車補修と販売」コースのカリキュラム体系

図 3-1 のように，職業能力は専門基礎能力，専門コア能力，専門展開能力に分けられている。また，職業能力の構成要素（表 3-1）によって各教科の養成目標が制定され，それぞれの内容は以下のとおりである。

表 3-1 職業能力の構成要素

専門能力	社会能力	方法能力
①コンピュータの操作能力を備える。	①より良い職業道徳、法制・紀律や社会公德を従い守る。	①仕事計画を制定できる能力
②自動車を正確に使用する能力、メンテナンス能力を備える。	②より良いコミュニケーション能力。	②問題解決能力
③自動車の販売能力を備える。	③団体精神と顧客サービス意識を備える。	③新しい知識・技術を独立に学ぶ能力
④自動車に関連する実用英語の能力	④勤労観・生涯学習理念を備える。	④仕事の結果を評価できる能力
⑤自動車の構造と補修できる基本技能を身に付ける。	⑤能動的に働く	⑤コンピュータの操作能力、自動車に関連するソフトの操作能力
④自動車保険に関する知識や技能能力を身に付ける。		

出所：朱建柳（2016）前掲書 243 頁を参照し，訳した。

「徳育目標」

- ①政治思想資質「生徒に愛国主義、共産党の基本路線を擁護させ、正しい世界観・人生観と価値観の樹立を導き、法制・紀律や社会公德を従い守る」
- ②体質及び体育技能「健康的な体質を備え、身体鍛錬を「国家体育鍛錬基準」に到達する」
- ③総合素質「健康的な心理資質、より良いコミュニケーション能力、自己の学習や自律的に改善する力を備える」
- ④職業素養「より良い職業道徳、団体精神と顧客サービス意識を備える」

「職業能力養成目標」

- a.自動車のエンジン、シャーシ、変速機、電子機器を補修できる能力。中等職業学校で中級レベルの自動車補修技能を備える。職業技術学院で高級レベルの自動車補修技能を備える。
- b.自動車のアフターサービス知識と技能を身につけさせる。
- c.安全意識や環境保護に関連する知識や技能を備える。
- d.自動車機電に関するアフターサービスに応じるコンピュータの操作能力、英語の使用能力を備える。

上記の職業能力構成要素と各目標に基づき、同コースのカリキュラムは共通基礎科目、専門コア科目、専門系列科目、専門実習科目、選択科目によって編成されている（表3-2）。

編成されているカリキュラムの特徴としては、共通基礎科目が全体の35%に占めており、全体の1/3程度となっている。40%以上が自動車の専門コア科目あるいは専門系列といった自動車の専門・具体的な仕事に関する科目で占められて、専門系列科目はより一層に広く開発されている。その一方、専門実習科目が全体の13%しか占めておらず、技能習得より理論知識のほうに力点が置かれているということである。

しかしながら、同コースは多くの授業は校内実習センターの中で行っている。すなわち、生徒は各自動車メーカーの生産現場をシミュレートして、直接の操作や部品の製作に参加している。そして、自動車サービス・メンテナンスを行うことによって、職業知識を深めて実際の職業能力を身に付けることができる。さらに、自動車新技術・自動車販売・自動車保険など科目を通して、生徒の職業適応能力を形成することが目指されている。

「中高一貫職業教育」のカリキュラム編成において、最も注目すべき特徴は、必修科目を重複履修させない取組みである。例えば、高等職業教育段階では履修されるべき共通基礎科目として語文・数学・英語・徳育と二つの科目・コンピュータ応用などが課されていない。そして、専門科目の43%のうち、22%は専門コア科目であり、21%は専門系列科目であり、1年次・2年次・3年次・4年次・5年次の前期で専門科目を履修し、3年次の後期（短期間）・5年次の後期から企業実習（13%しかない）のみの履修となっている。すなわち、学校で生徒の理論的知識の養成をより一層重視していくために、授業時間数における専門コア科目や専門系列科目の比重が大きくなる一方、専門実習科目の時間数の比重の小ささがかなり目立っていると言える。

表 3-2. 「自動車補修と販売」コースのカリキュラム表

科目分類	科目名称	総時間数	総単位数	時間配分										全体に占める各科目の割合		
				中等職業教育					高等職業教育							
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	5年 前期	5年 後期			
				16週	18週	18週	18週	14週	14週	18週	18週	14週	18週			
（公共基礎課程）	語文(語文)	136	12	6	6										5%	
	数学(数学)	336	19	4	4	4	4	4							8%	
	英語(英語)	392	22	4	4	4	4	4	4						9%	
	コンピュータ応用(計算機応用)	136	8		4	4	4	2							3%	
	徳育と二つの科目(徳育与两課)	196	11	2	2	2	2	2	2						5%	
	体育(体育)	268	7	2	2	2	2	2	2	2	2				3%	
	スピーキング(口語交际)	56	3						4						1%	
	小計	1520	82	18	22	16	16	14	12	2	2	0	0		35%	
コア科目(核心課程)	専門英語(专业英語)	144	8							4	4				3%	
	自動車機械基礎(汽车机械基础)	136	8	4	4										3%	
	自動車電子電気技術(汽车电子电子技术)	144	8			4	4								3%	
	自動車の構造と分解(汽车结构与拆装)	144	8			4	4								3%	
	エンジン原理と自動車理論(发动机原理与汽车理论)	84	5					4	2						2%	
	自動車応用と技術管理(汽车使用与技术管理)	56	3						4						1%	
	自動車販売(汽车市场营销)	56	3					4							1%	
	自動車販売実務(汽车营销实务)	56	3						4						1%	
	自動車補修と接客実務(汽车维修接待实务)	56	3									4			1%	
	自動車文化(汽车文化)	32	2	2											1%	
	小計	908	51	6	4	8	8	8	10	4	4	4	0		22%	
	専門科目(专业课程)	自動車商品の評価(汽车商品评价)	56	3									4			1%
		自動車販売法律と法規(汽车营销法律与法规)	36	2							2					1%
		ビジネス礼儀(商务礼仪)	36	2		2										1%
電子ビジネス(电子商务)		36	2			2									1%	
販売心理学(销售心理学)		36	2							2					1%	
自動車保険実務(汽车保险实务)		72	4								4				2%	
自動車市場の調査と予測(汽车市场调研与预测)		36	2				2								1%	
自動車部品の販売(汽车零配件销售)		36	2								2				1%	
自動車保守(汽车维护工艺)		72	4							4					2%	
自動車新技術(汽车新技术)		56	3									4			1%	
自動車の保守・管理(汽车维修业务管理)		56	3									4			1%	
自動車の点検・故障の判断(汽车检测与故障诊断)		72	4							4					2%	
自動車美装と塗装(汽车美容与装潢)		72	4								4				2%	
中古車の販売(二手车的交易)		36	2								2				1%	
ビジネスの取引実務(商务谈判实务)		72	4							4					2%	
自動車の修理ケース(汽车修理工艺案例)		72	4								4				2%	
自動車の金融(汽车金融)		56	3									4			1%	
小計	908	50	0	2	2	2	0	0	16	16	16	0		21%		
専門実習科目	専門実習(专业实训)	90	3					3							1%	
	自動車運転(汽车驾驶)	120	4									4			2%	
	企業実習(生产实习)	660	22						4				18		9%	
	技能検定(技能鉴定)	60	2					1				1			1%	
	小計	930	31												13%	
選択科目(选修课程)	428	19	2	0	4	4	4	2	4	4	4	0		8%		
合計	4694	233												100%		

備考：各科目の原語は（ ）である。二つの科目は「マルクス・毛沢東思想・鄧小平理論」に関する科目と「思想道德と法律基礎」科目である。ただし、一部の科目は総単位数と各学期に取得する単位数がイコールせずにそのままに取り上げた。また、カリキュラム表は3年毎に1回編成する。

出所：朱建柳（2016）前掲書 84-86 頁をまとめて訳した。

## おわりに

中国の上海市における「中高一貫職業教育」について、以下の結論が導き出された。

### (1) 後期中等職業教育機関の進路変化

卒業状況の分析結果をみると、産業現場における職業の専門性が高くなり、従来、就職を中心としていた後期中等職業教育機関では、専門的な教育を行っている高等教育機関への接続が具体的な進路先となっている。就職や進学など進路の多様化に対応する中等職業学校では、生徒の質を保持するために、入学者の面接から選別試験まで一連の制度を改革しつつある。他方、義務教育から後期中等教育まで、日本と同様に 6-3-3 制という単線型が採用されている現在の中国の教育上のシステムの矛盾を、高等教育段階で複線型に修正するのであろう。

### (2) 「中高一貫職業教育」の特徴と課題

2010 年から「中高一貫職業教育」を本格的に展開する方針が出されてから、職業能力の養成やカリキュラムの開発にも本格化し始めた。今回の現場調査の結果が示すように、「中高一貫職業教育」は多様な職業能力を中心とし、複数の技能に習熟した高度な技能者の養成を重視するカリキュラムを開発していた。すなわち、職業能力に基づき、5 年間の教育内容を全体的な設置する。そのうち、後期中等職業教育段階とする最初の 3 年間は、適切に専門コア科目を設置し、生徒に専門知識と技能を身に付けさせるために良い基盤を築いていく。その後、高等職業教育段階とする 2 年間は、専門的知識を適切に拡大するために、専門系科目の内容を広げて編成した。一方、生徒の実習は顧客に対してではなく、多くの授業はシミュレーションでコンピュータや機械に向かって行われている。企業実習の授業時間数が総時間数の 10%に至らない。しかし、実習は生徒の将来の就職先および実際の職業環境への適応と緊密な関係を持っている。

本稿では、上海市における「5 年一貫制」を主として「中高一貫職業教育」の実態調査について検討を行った。しかしながら、杭州市の実態にまでは踏みできなかった。収集資料やインタビュー調査の結果について不十分で、まだまとまった情報を得られないが、また、本稿で取り上げた以外の「3+2」制の具体的なプログラムにも追加調査で、多様化した「中高一貫職業教育」の相違点を明らかにすることが今後の 1 つの研究課題である。

---

1 「現代的な職業教育体系」とは、「経済発展の転換と産業構造の要求に応じ、縦の方向で繋がり、横の方向で融通し、構成が合理的で、多種多様な形式で、弾力性をもち、開放的な職業教育システムとなっている。つまり、中等と高等の職業教育、普通教育と職業教育、学歴教育と非学歴教育、就職教育と在職者教育が分離せず、うまく繋がるように、学校を運営する理念と分担が整備される。すなわち生涯学習の構想である。文部科学省『諸外国の教育動向 2010 年度版—中国』（2011 年、明石書店）188-189 頁

2 王育培（2012）『中等和高等職業教育接続的理論与实践研究—以福建省為例』厦門大学出版社 21-22 頁を参考しながら、筆者が意識した。

3 同上、筆者が意識した。

4 「国家中長期教育改革・人材発展計画綱要（2010—2020）」、2013 年 4 月の「高等職業教育の入学試験及び学生募集制度の改革を積極的に進めることに関する指導意見」、「現代社会に適応した職業教育を促進する決定」、「現代職業教育体系構築計画（2014-2020 年）」、2015 年の「職業教育改革を深化させ、全面的に人材育成の質を向上させることに関する若干の意見」など、筆者は 2018 年 3 月に国家教育部ホームページ (<http://www.moe.gov.cn>) を検索し、閲覧した。

5 後期中等職業教育を実施する後期中等職業教育機関は、建国初期に中等専門学校（教育行政部門管轄の学校）と技工学校（労働部門が管轄の企業内学校）が設立された。1980 年以降に普通科高校の一部から職業高校（職業高級中学：教育行政部門管轄の学校）に改組され、既存の二つの種類の後期中等職業教育機関とあわせ、現在は、これら三種類の学校を一括して「中等職業学校」と呼んでいる。その差異があいまいになりつつある。ここでは統一に「中等職業学校」と称する。

6 中国高等職業教育機関は大きく「技術高等専門学校」（原語：技術高等専科学校）、「職業技術学院」という 2 種類がある。「技術高等専門学校」は 1950 年代に発足し、5 年制の学校で、その前身は 4 年制の中等専門学校である。1980 年代経済建設のために「職業大学」が設置され、その多数は 1998 年の「20 世紀を目指す教育振興行動計画」で、「職業技術学院」へ改組した。

張琳（2011）「中国高等職業教育に関する一考察—位置づけと発展プロセス—」『九州大学大学院教育コース院生論文集』第 11 号 23-40 頁



- 7 劉文君は「技術労働者」として述べたが、筆者は「技能労働者」と解釈した。劉文君(2004)『中国の職業教育拡大政策—背景・実現過程・帰結—』東信堂 61—65 頁
- 8 1998 年の「中等職業学科設置管理の原則意見」ないし 2000 年の「中等職業学校教授計画の制定についての原則意見」などによると、中等職業学校では「能力本位」の教育思想が徐々に広がり、難しい理論知識に偏る教授の傾向を改め、実践を主体とする教授モデルへと移行し、総合的な職業能力の養成を重点とするカリキュラム(原文:教育課程)体系を構築している。丁妍(2008)『現代中国の後期中等職業教育—市場経済移行期における技術労働者学校の変容—』星雲社 56 頁を参照。
- 9 蔣乃平は「総合的な職業能力」として述べたが、筆者は多様な職業能力を意識した。  
蔣乃平主編(2013)『職業生涯规划(修訂版)』高等教育出版社、65 頁を参照。
- 10 20 世紀 80 年代後期に北米・カナダの CBE (Competency-based Education) カリキュラムの理論を盛んにしている。「能力本位」とは「仕事のタスクを完了するため、職業能力の基準を予め確定し、生徒にその必要な知識、技能や態度に身につけさせる」ことである。中国では 1990 年初に導入して理論研究と教育実践を行っている。徐国慶(2008)『职业教育课程论』華東師範大学出版社 37-38 頁を参照。
- 11 拙稿(2015)「中国における後期中等職業教育改革と「仕事プロセス指向」カリキュラム」大阪千代田短期大学紀要第 43 号 31-46 頁  
朴・井上真求(2016)「座学と実習の一体化を中心とする後期中等職業教育のカリキュラム開発—上海市における「実技主導型」モデル—」大阪千代田短期大学紀要第 44 号 81-98 頁
- 12 「科学技術の発達及び情報社会の到来によって、ハイテク産業を増加し、新しい技術と設備を導入し、新たな高いレベルの管理と操作技能も求められるようになってきた。」黄海英(2000)「中国における短期高等教育の構造と職業教育の導入」『教育社会学研究』第 67 集 45—64 頁 57 頁を参照。  
「現在の多くの職種が近い将来に消滅し、高度の職種しか残らないような論調が目立つ。この議論は事実、多くの先進国の教育政策、技能形成政策の基底に深く組み込まれている」。佐々木英一(2018)「職業教育・訓練の高度化とその政策的対応—ドイツのデュアルシステムの変化を中心に—」『経営論集 66 巻第 1 号』57—84 頁
- 13 中国労働・社会保障部が 2000 年 3 月に出した「技術職種従業員募集規程」によると、「国家は職業資格免許制度を実行し、労働保障部門の承認を経た認定機構が労働者に対し職業技能の審査・認定を実施する。国家職業資格は初級(五級)、中級(四級)、高級(三級)、技師(二級)、高級技師(一級)」というように、五つの等級になっている。
- 14 初級中学から高級中学への進学については、各省・自治区・直轄市ごとの統一入試である「初級中学が学力試験・高級中学段階学校生徒募集試験」を行い、その成績により各高級中学が入学者を選抜している。そして、高級中学への進学せずに生徒は中等職業学校へ入学する者が多い。
- 15 前掲論文 同注 6
- 16 『上海市中等職業学校卒業生就職状況』(2003 年～2012 年)、上海市学生事務センター  
中国職業学校職業指導編集『中国中等職業学校卒業生就職状況分析報告』(2012 年、2013 年、2015 年、2016 年)北京理工大学出版社  
上海市教育科学研究院職業教育と成人教育所(2017 年～2018 年)データを提供した。
- 17 教育部等 6 部門による「製造業・現代サービス業技能型人材養成プロジェクト」2004 年、2018 年 3 月 22 日に([http://www.moe.gov.cn/jyb\\_xwfb/xw\\_zllssj/moe\\_183/tnull\\_2286.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/xw_zllssj/moe_183/tnull_2286.html))を閲覧した。
- 18 朱建柳(2016)『以職業能力為核心的中高職貫通人材培養模式探索与实践』上海科学技術出版社 81 頁を訳した。  
朱建柳は上海市 A 職業技術学院の副学長である。